（様式２Ｂ） 個別箇所評価総括表［継続］ （要領第５の２（１）関係）

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	6 地すべり防止	補助・単独別	補助

林務部 森林づくり推進課

番号	箇所名（市町村名）	事業内容 全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降	項目毎の評価	事業の実施状況 H23年度末進捗率	進捗状況	部意見	政策評価課意見	取組方針
1	日影入（ひかげいり） （箕輪町）	山腹工 1.20ha アンカー工 386本 暗渠工（ボーリング）2,035m （工期：H20～H27）	山腹工 0.10ha アンカー工 12本	山腹工 0.10ha アンカー工 33本	山腹工 0.71ha アンカー工 236本	評価時（変更）H22	43%	H23年度までに暗渠工は100%、ｱﾝｶｰ工は3%が完了。 H24年度は引続きｱﾝｶｰ工を実施する。	地すべりの発生により林道が被災したが、規模が大きく下流への影響が大きい上、2市町を結ぶ重要な路線の交通の安全確保上緊急を要するため、事業の継続が必要である。	緊急性が認められる。	「継続」
						必要性 B	特記事項 H22変更 暗渠工（ボーリング）705m増 事業費469,00千円増 工期延長3年 詳細な地すべり調査と機構解析の結果、当初の想定よりも地すべり規模が大きいことが判明したため、計画の変更が必要となった。				
						重要性 B					
						効率性 B	B/C(費用対効果)= 3.31				
		8億6390万円	2772万4千円	9900万円	4億8879万3千円	緊急性 A	住民参加状況等 地元が「維持管理会」を組織し、林道の維持管理を行っている。				
2	長久保（ながくぼ） （安曇野市）	谷止工 2個 山腹工 5.00ha 集水井 7個 排土工 18,000m3 押さえ盛土工 9,200m3 水路工 560m ほか （工期：H20～H25）	山腹工 5.00ha 集水井 3個	山腹工 5.00ha 排土工 5,400m3 水路工 420m ほか	山腹工 5.00ha 排土工 18,000m3 押さえ盛土工 9,200m3 水路工 560m ほか	評価時（変更）H24	70%	H23年度までに谷止工と集水井完了。H24年度は排土工、水路工を実施。	平成19年5月に発生した地すべりが沢を閉塞したため緊急対応として谷止工を優先して実施してきた。 平成21年5月に地すべりが再活動するなど不安定な状態で推移しているため、早期に地下水を排除して安定化させるよう事業を継続する必要がある。	重要性が高く、必要性、緊急性も認められる。	「継続」
						必要性 A	特記事項 H22変更：集水井増、事業費3億2,000万円増、工期2年延長 H21年5月に施工区域内において地すべりが再活動したため、再調査と対策工の見直しを行った。 H24変更：事業費1億1,200万円増 H23年5月に施工区域頭部が拡大崩壊したため、再調査と対策工の見直しを行った。				
						重要性 A					
						効率性 A	B/C(費用対効果)= 3.30				
		9億8000万円	1億9200万3千円	8800万円	2億9318万8千円	緊急性 A	住民参加状況等 地すべり監視体制の中に地元区も参加している。				

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	6　地すべり防止	補助･単独別	補助

林務部　森林づくり推進課

番号	箇所名 〔市町村名〕	事業内容 全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降	項目毎の評価	事業の実施状況 H23年度末進捗率	進捗状況	部意見	政策評価課意見	取組方針
3	上鼈（あげるる） 〔大町市〕	山腹工 0.79ha 土留工 18個 水路工 840m 法枠工 250㎡ 伏工 6,553㎡ほか 〔工期：H18～H24〕	山腹工 0.30ha 土留工 5個 水路工 ほか	山腹工 0.12ha 土留工 1個 法枠工 250㎡ 伏工 1,130㎡ ほか	山腹工 0.12ha 土留工 1個 法枠工 250㎡ 伏工 1,130㎡ ほか	評価時 （変更） H24	79%	当初計画分の山腹工が完了し、H24はH23豪雨災害による新生山腹崩壊地の対策を実施して完了する。	H21･22年度は経過観測のため一時休止していた。 H22年7月豪雨により計画地内の一部が崩壊し、土砂が市道に流出したため、事業を継続して実施し平成24年度概成を図る。	平成24年度での概成を図る。	「継続」
						必要性 B	特記事項 H21、H22経過観察により休止。 H23変更：谷止工1個減　山腹工0.21ha増 事業費2,860万円増　工期延長4年延長 H24変更：谷止工1個減　山腹工0.25ha増　事業費2,440万円増				
						重要性 A					
						効率性 A	B/C(費用対効果)= 1.52				
		1億5595万3千円	4270万円	3300万円	3300万円	緊急性 A	住民参加状況等 市道に隣接する水路工等流末を中心とした部分の維持管理について地域住民の参加を調整中				
4	小土山（こづちやま） 〔小谷村〕	山腹工 5.76ｈａ 集水井工 5基 暗渠工(ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ) 8,522m 暗渠工(ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ) (地上) 4,930m 水路工 600m 植栽工 1,700本 〔工期：H22～H30〕	集水井工 3基 暗渠工 4,050m （ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ） 暗渠工（地上） 350m （ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ）	山腹工 0.30ha 植栽工 1,700本	山腹工　5.76ｈａ 集水井工　2基 暗渠工(ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ)3,430m 暗渠工(ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ) （地上）3,280m 水路工　600m 植栽工 1,700本	評価時 （変更） H23	45%	計画どおり進んでいる。 集水井工1基、暗渠工(ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ)（地上）1,400mが完了し、H24はH23補正繰越工事の集水井工2基及び植栽工を実施する。	平成20年に地すべりが再活動しており、拡大した場合には直下の姫川をせき止め、国道、鉄道、人家に甚大な被害が及ぶため、事業を継続し、地すべり対策をさらに進める必要がある。	重要性が高く、必要性、緊急性も認められる。	「継続」
						必要性 A	特記事項 H20.3月融雪災　地すべり防止施設災害復旧対応箇所 H23変更：集水井工3基増（暗渠工(ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ)4,900m増） 事業費2,346万9千円増 H23 国の3次補正により集水井工2基施工。H24植栽工追加				
						重要性 A					
						効率性 B	B/C(費用対効果)= 2.86				
		7億4820万円	2億9840万円	2110万円	4億1432万4千円	緊急性 A	住民参加状況等 過去には植樹祭も行われ、塩の道のルートもあることから維持管理を行ってきている。				
5	新安（しんやす） 〔長野市〕	山腹工 1.50ha 土留工 1個 暗渠工（ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ） 2,270m 法枠工 2,000㎡ 鉄筋挿入工 522本 切土･排土工 8,500m3　ほか 〔工期：H19～H25〕	排土工 6,160m3 法枠工 1,216㎡ 鉄筋挿入工 404本	山腹工 1.50ha 暗渠工 786m （ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ）	山腹工 1.50ha 土留工 1個 暗渠工 200m （ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ） 切土･排土工 700m3	評価時 （変更） H24	93%	H23年度までに暗渠工の75%と法枠工の35%、切土･排土工の30%を完了。 H24年度は引き続き切土･排土工と法枠工及び鉄筋挿入工を実施する。	平成20年3月の融雪災害により市道が大きく被災し、地すべりの末端が下方河川まで達する状態となったため事業を継続して実施する必要がある。	予定工期内での概成を図る。	「継続」
						必要性 C	特記事項 H23変更：切土工、排土工7,500m3増、鉄筋挿入工90本増、 事業費8,290万円増、工期延長1年 対策工実施中の効果判定の結果、切土工･排土工と鉄筋挿入工の数量増が必要となったため変更。 H24変更：工期1年増				
						重要性 A					
						効率性 A	B/C(費用対効果)= 1.20				
		2億6238万円	1億2260万円	3670万円	4837万円	緊急性 A	住民参加状況等 地元区により北浦地区地すべり対策委員会が設けられ、地すべり現象や危険箇所の把握などにおける地域との連携体制をとっている。				

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	6　地すべり防止	補助･単独別	補助

林務部　森林づくり推進課

番号	箇所名（ふりがな） 〔市町村名〕	事業内容 全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降	項目毎の評価	事業の実施状況 H23年度末進捗率	進捗状況	部意見	政策評価課意見	取組方針
6	七久保（ななくぼ） 〔長野市〕	山腹工 5.00ha 土留工 10個 実播工 20,000㎡ 暗渠工 1,117m 暗渠工（ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ）8,000m 集水井工 10基 杭打工 40本 排土工 70,000m3 水路工 4,220m 護岸工 60m 〔工期：H16～H25〕	山腹工 5.00ha 土留工　1個 水路工　179m	山腹工 5.00ha 暗渠工 1,000m （ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ）	山腹工 5.00ha 土留工 9個 実播工 20,000㎡ 暗渠工（ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ）986m 集水井工 2基 杭打工 40本	評価時 （変更） H23	70%	地すべりの活動が継続中であり、集水井、暗渠工の施工による地下水排除を重点的に行っている。H24年度は引続き暗渠工（ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ）を実施する。	活発な活動を続けている地すべりであり、再活動時には裾花川を閉塞させる危険が高い。 地すべり全体の安定化と末端部の固定を早期に達成させるために、対策工の効果を精査しつつ事業を継続する必要がある。	必要性、重要性が認められる。	「継続」
						必要性 A	特記事項 H23変更：集水井2個,暗渠工（ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ）2000m増, 事業費1億1090万円増 対策工実施中の効果判定の結果、地下水の排除をさらに実施する必要があるため、対策工を増。				
						重要性 A	･平成19年度より学識経験者等による検討委員会が発足。最新の観測結果に個づき対策工の検討を行いつつ、事業を進めている。 ･施工中の安全と早期完了のために、地すべり上部の崩壊地復旧は復旧治山事業、下方裾花川への建設事務所の対応と連携して工事を進めている。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)= 2.10				
		16億7230万円	5886万3千円	4300万円	5億724万8千円	緊急性 B	住民参加状況等 特になし。				
合計	6箇所	46億8273万3千円	7億4229万円	3億2080万円	17億8492万3千円		A：配点の７５％以上 B：５０％以上７５％未満 C：５０％未満				